

志賀志那人の芸術教育論と大阪市北市民館における実践

永井 泉（URP 特別研究員）

研究課題

国内初の公的セツルメントである大阪市北市民館（大正 10 年開館、以下「市民館」とする）を拠点とした芸術文化活動について、初代館長である志賀志那人（1892-1938）の思想と関連させながらその実践に注目している。先行研究でも、志賀は館長に就任直後から合唱団や管弦楽団を組織し、一方で浪曲や文楽という地元根付いた芸能に関わる活動を興したことが示されており、彼には「ラスキンやモリスのように文化と芸術を労働者へという思想が基本にあった<sup>1</sup>」ということが指摘されている。また、市民館はその設立にあたり、ロンドンのトインビーホールやシカゴのハルハウス等、芸術文化活動を重視したセツルメント事業を念頭においていたことが、その設立趣意書にも現れている。

そこで本発表では、志賀のセツルメント事業と芸術に関する思想、そして市民館における実践のより具体的な内容を明らかにすべく、彼が特に市民の「協同」の精神を養う教化の方法として音楽や舞踊をとらえ実践を試みていたという側面に注目し、以下の点について検討したことを報告する。

（1） 市民教化としての「共同で演ずること」

- ・市民館の事業としての共同娯楽
- ・志賀の重視した「協同」の精神
- ・市民館における合唱団・管弦団の活動
- ・共同娯楽としての合唱、フォークダンス

（2） 子どものための芸術教育

- ・野口雨情との関わり：「歌える童謡」、「踊れる童謡」の提唱
- ・芸術教育協会の創立：芸術に対するよろこびを万人へ
- ・雑誌『藝術と教育』にみられる童謡観

### (3) 保育実践と芸術

- ・北市民館保育組合、北市民館幼稚園の設立
- ・保育実践における協同の活動：歌や踊りの位置づけ
- ・志賀の作詞による《市民館幼稚園歌》の特徴

### 今後の課題

市民館における芸術活動やそれに関する志賀の思想については、現在に残る記録や著作について今後も調査していきたいと考えている。現在のところ、市民館と芸術に関することを中心に包括的にまとめられたものは見出していないが、志賀の執筆している「第二回セツルメント国際協議会に就いて<sup>2</sup>」という開催案内に、この協議会のテーマのひとつが「セツルメントと芸術」であることが記されている。志賀はこの協議会には出席していないが、彼は当時この協議会の委員をしていたこともあり、北市民館における芸術活動についても報告がなされた可能性がある。この協議会の報告集<sup>3</sup>は国内では所蔵している図書館がないためにまだ内容を確認していないが、こうした資料についても調査を進めていきたい。

---

1 永岡正己「志賀志那人の生涯と社会事業実践の思想」『都市福祉のパイオニア 志賀志那人 思想と実践』和泉書院（2006）

2 志賀志那人「第二回セツルメント国際協議会に就いて」『社会学雑誌』第10号

3 *Settlements in Many Lands* : International Association of Settlements, 1926